

平成21年5月14日

平成21年3月期 決算の概要について

シロキ工業株式会社

(輸送用機器 東証、名証第1部上場)

(*百万円未満以下切り捨てております)

1、平成21年3月期連結決算の概要

3月31日現在の当社の連結対象子会社数は国内5社、海外6社の計11社で、また持分法適用の関連会社数は国内2社で、それぞれ前期末と変更はありません。

売 上

【大幅減収。期後半以降、日米で大幅な受注減】

当期の連結売上高につきましては、前期比14.0%減の1,234億2千5百万円で201億3千2百万円の大幅な減収となり、6期連続で過去最高を更新した前期から一転して、平成14年3月期以来の7期ぶりの減収となりました。これは世界経済の大幅な減速を背景に、世界的な自動車販売の急速な落ち込みにより、期後半以降、主として日本、米国を中心に、得意先自動車メーカーの想定を超えた大幅な生産調整に伴う、大幅な受注減によるものであります。

所在地別では、日本が国内自動車販売の低迷に加えて、輸出不振による得意先自動車メーカーの生産調整の影響により、前期比14.3%減の903億8千9百万円で150億4千5百万円の減収となったほか、米国も自動車販売の不振による生産減と為替換算レートの影響により、前期比20.4%減の227億3千5百万円で58億1千7百万円の減収となり、日米で大幅な減収となりました。一方、中国など成長が期待されているアジアでは、成長に鈍化がみられたものの堅調に推移し、新規受注品による生産増加などが加わり、前期比7.6%増の103億円で7億3千万円の増収となりました。しかしながら、アジアが日米の大幅な落ち込みをカバーするまでにはいたりませんでした。

得意先別では、主力のトヨタグループ向けが日米での大幅な減産により、前期比16.4%減の803億5千万円

連結決算概要

(上段当期、下段前期)

売上高：

1,234億2千5百万円
1,435億5千7百万円
(前期比14.0%減)

営業利益：

3千1百万円
50億5千8百万円
(前期比)

経常利益：

7億7千3百万円
39億3千1百万円
(前期比)

当期純利益：

21億9千万円
29億7百万円
(前期比 -)

1株当たり当期純利益：

24円70銭
32円77銭

海外売上高比率：

27.3%
27.0%

設備投資：

66億3千1百万円
68億4千9百万円
(前期比3.2%減)

減価償却費：

60億1千4百万円
60億9千7百万円
(前期比1.4%減)

で、157億1千3百万円の大きく減収となったほか、小型車・軽自動車向け生産が堅調に推移したスズキは前期比7.4%減の100億7千6百万円で8億7百万円の小幅な減収となりました。

製品別では、主力3大製品のシートリクライナ・シートアジャスタが前期比14.0%減の448億5千7百万円で73億1千7百万円の減収、ウインドレギュレータは前期比15.7%減の365億1千5百万円で67億9千5百万円の減収、ドアサッシも前期比11.1%減の222億8千3百万円で27億7千5百万円の減収と、主力製品がいずれも大幅な減少となりました。

国内売上

国内につきましては、主力のシロキ工業が前期比14.6%減の899億9千7百万円で153億4千6百万円の大幅な減収となり、平成16年3月期以来の5期ぶりの減収となりました。これは、国内自動車販売の低迷に加え、得意先自動車メーカーの輸出の大幅な減少や在庫調整に伴う大幅な受注減によるものであります。

海外売上

米国につきましては、シロキノースアメリカ（テネシー州）が、前期比20.3%減の227億7千6百万円で、57億8千1百万円の減収となりました。これは、米国自動車販売の不振による現地得意先自動車メーカーの大幅な減産に伴う受注減とともに、為替換算レートの影響36億1千4百万円などによるものであります。

アジアにつきましては、中国の広州白木汽車零部件（広州市）が大きく伸び、前期比13.6%増の55億7千6百万円で6億6千7百万円の増収となり、好調を維持いたしました。これは堅調な自動車販売を背景に、現地トヨタ自動車および日産自動車向けの増産とともに、ドアサッシなどの新規受注品の生産開始などが貢献したものであります。

タイではシロキタイランド（チョンブリ県）が、前期比0.4%増の47億2千5百万円で1千6百万円の増収と

所在地別売上高

・日本	903億8千9百万円 1,054億3千4百万円 (前期比14.3%減)
・米国	227億3千5百万円 285億5千2百万円 (前期比20.4%減)
・アジア	103億円 95億7千万円 (前期比7.6%増)
・合計	1,234億2千5百万円 1,435億5千7百万円 (前期比14.0%減)

得意先別売上高

・トヨタG	(65.1%) 803億5千万円 960億6千4百万円 (前期比16.4%減)
・売上高上位（自動車メーカー）	
トヨタ自動車	(36.7%) 452億7千5百万円 553億9千3百万円 (前期比18.3%減)
スズキ	(8.2%) 100億7千6百万円 108億8千3百万円 (前期比7.4%減)
日産自動車	(7.2%) 88億9千6百万円 97億2千8百万円 (前期比8.6%減)

* 社名横の（）内は売上構成比率

主要製品別売上高

シートリクライナ・シートアジャスタ	(36.3%) 448億5千7百万円 521億7千4百万円 (前期比14.0%減)
ウインドレギュレータ	(29.6%) 365億1千5百万円 433億1千万円 (前期比15.7%減)
ドアサッシ	(18.1%) 222億8千3百万円 250億5千8百万円 (前期比11.1%減)

* 製品名横の（）内は売上構成比率

なりました。昨年5月より新たに自動車用シートのスライドロックに使うユニット部品の生産を開始いたしました。

損益

【大幅な売上減と円高で赤字】

損益につきましては、期後半以降、得意先自動車メーカーの大幅な減産に伴う受注減に対応するため、生産稼働日の調整や勤務形態の見直し、生産人員の縮小、生産ラインの1直化への切り替えなど全社的な生産調整に踏み切り、さらには役員報酬や管理職給与削減など、全社をあげて聖域なきコスト削減に取り組んでまいりました。しかしながら、売上の大幅な減少や円高などにより、営業損失は3千1百万円(前期の営業利益は50億千5百万円)、また経常損失は7億7千3百万円(前期の経常利益は39億3千1百万円)となり、ともに平成10年度3月期以来の赤字となりました。また、最終損益ではシロキ工業が当期の繰越欠損金に対する繰延税金資産の計上見送りと、併せ繰延税金資産を一部取り崩したことなどの影響により、当期純損失が21億9千万円(前期の当期純利益は29億7百万円)となり、平成13年3月期以来の赤字となりました。

期末配当金は見送り。年間2円50銭の減配

配当金につきましては、本年2月5日に公表した「配当予想の修正に関するお知らせ」で、平成21年3月期の期末配当金を未定としておりましたが、通期の業績実績を踏まえ、誠に遺憾ながら見送りとさせていただきます。

なお、中間配当金として1株につき2円の支払いを既に実施しておりますので、当期の年間配当金は2円となり、前期比で2円50銭の減配となります。

1株当たり当期純利益：

43円47銭
15円01銭

設備投資：

53億1千9百万円
37億8千9百万円(前期比40.4%増)

減価償却費：

45億5千4百万円
46億1千6百万円(前期比1.3%減)

主要会社別売上高

シロキ工業

899億9千7百万円
1,053億4千3百万円
(前期比14.6%減)

シロキノースアメリカ

227億7千6百万円
285億5千8百万円
(前期比20.2%減)

広州白木汽車零部件

55億7千6百万円
49億9百万円
(前期比13.6%増)

シロキタイランド

47億2千5百万円
47億8百万円
(前期比0.3%増)

セグメント別営業利益

・日本

14億5百万円
28億4千4百万円
(前期比 -)

・米国

4億9千万円
5億5千5百万円
(前期比 -)

・アジア

15億9百万円
13億5百万円
(前期比15.6%増)

・消去又は全社

3億5千4百万円
3億5千2百万円
(前期比0.6%増)

・合計

3千1百万円
50億5千8百万円
(前期比 -)

個別決算概要

売上高：

899億9千7百万円
1,053億4千3百万円
(前期比14.6%減)

営業利益：

16億8千6百万円
23億7千6百万円
(前期比 -)

経常利益：

13億6千万円
21億5千5百万円
(前期比 -)

当期純利益：

38億5千6百万円
13億3千1百万円
(前期比 -)

2、平成22年3月期連結業績予想について

売 上

[引き続き主力の日米が低迷]

来期の連結の業績予想につきましては、引き続き世界的な景気減速による市場環境の悪化で、主力の日本と米国の自動車販売が低調に推移し、成長が期待されているアジアも景気悪化の影響は免れないものと思われまます。従いまして、通期売上高は前期比13.1%減の1,072億円で162億2千5百万円の減収で、2期連続の減収を予想しております。

国内売上

主力のシロキ工業の通期売上高を前期比11.1%減の800億円で99億9千7百万円の減収を予想しております。

海外売上

米国では、シロキノースアメリカの通期売上高を前期比20.1%減の182億円を見込んでおります。

アジアは、中国・広州白木自動車零部件の通期売上高を前期比0.2%減の55億円のほぼ横ばいを見込んでおります。また、タイのシロキタイランドの通期売上高は前期比34.4%減の31億円を見込んでおります。

損 益

[緊急収支改善活動のさらなる徹底]

損益につきましては、売上減少に伴う人員体制の見直しや、緊急収支改善活動のさらなる徹底により原価低減をはかるものの、大幅な売上減少による限界利益の減少などにより、通期営業損失20億円を予想しております。また、通期経常損失20億円、当期純損失28億円を予想しております。

平成22年3月期連結予想

(上段予想、下段前期実績)

売上高:

1,072億円
1,234億2千5百万円
(前期比13.1%減)

営業利益:

20億円
3千1百万円
(前期比 -)

経常利益:

20億円
7億7千3百万円
(前期比 -)

当期純利益:

28億円
21億9千万円
(前期比 -)

1株当たり当期純利益:

31円58銭
24円70銭

設備投資:

45億2千1百万円
66億3千1百万円
(前期比31.8%減)

減価償却費:

60億円
60億1千4百万円
(前期比0.2%減)

会社別売上高予想

シロキ工業

800億円
899億9千7百万円
(前期比11.1%減)

シロキノースアメリカ

182億円
227億7千6百万円
(前期比20.1%減)

広州白木自動車零部件

55億円
55億7千6百万円
(前期比1.4%減)

シロキタイランド

31億円
47億2千5百万円
(前期比34.4%減)

対処すべき課題

[国内800億円で利益を出せる体制づくり]

引き続き日米欧の先進国を中心に自動車販売の回復には時間を要するものと思われます。特に米国におきましては米国自動車メーカーの大幅減産は来期も継続するものと予想され、米国子会社のシロキノースアメリカ株式会社は財務強化のため、2000万米ドルの資本増強を計画しております。当社グループといたしましては、「新中期経営計画」を加速するとともに、さらなる生産体制の見直しや一層の原価低減に努め、国内売上高800億円で利益の出せる体制づくりを進めてまいります。

製品開発におきましては、共通化とシステム化によりコスト低減を進めるとともに、軽量化による省エネをはかった新製品開発に注力してまいります。またグローバル化への対応につきましては、アジアを中心に今後も成長が見込める市場での受注体制の整備・強化を進めてまいります。さらに、生産分野におきましては、生産ラインの恒常的な1直稼動化を目指した「モノづくり改革」を加速するとともに、より一層の生産の高効率化を進め、シャープでスリムな生産体制構築に取り組んでまいります。

以上

平成22年3月期個別予想

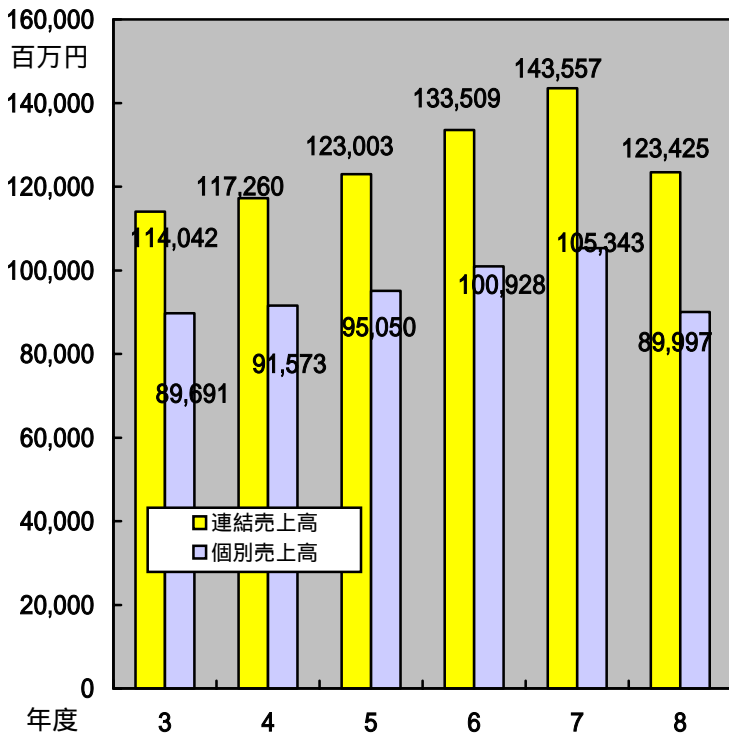
売上高：	800億円
	899億9千7百万円
	(前期比11.1%減)
営業利益：	30億円
	16億8千6百万円
	(前期比 -)
経常利益：	24億円
	13億6千万円
	(前期比 -)
当期純利益：	30億円
	38億5千6百万円
	(前期比 -)
1株当たり当期純利益：	33円82銭
	43円47銭
設備投資：	38億6千8百万円
	53億1千9百万円
	(前期比27.3%減)
減価償却費：	43億4千万円
	45億5千4百万円
	(前期比4.8%減)

この件のお問い合わせは：
シロキ工業株式会社(0533)84-4691 総務部広報担当 眞野 まで

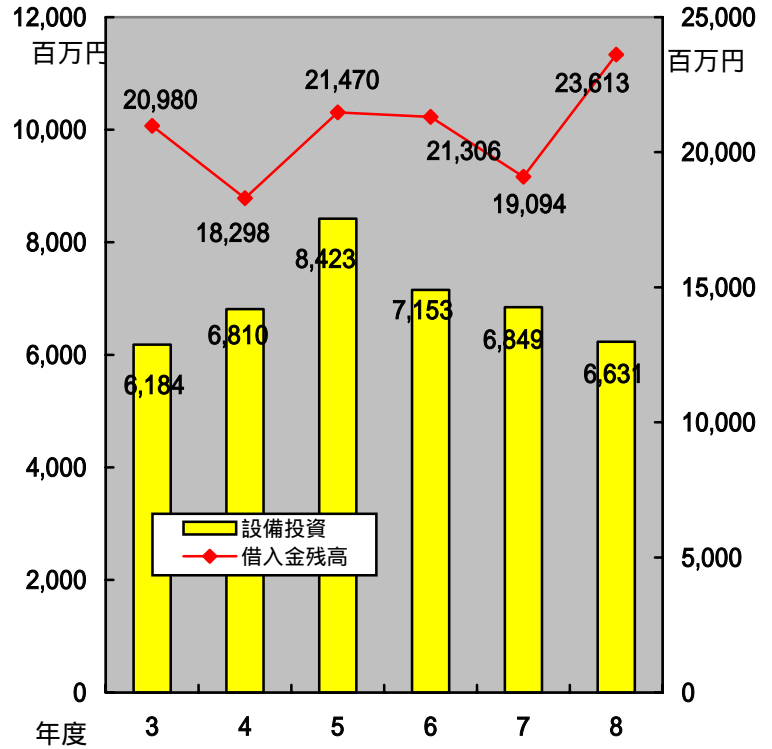
業績推移

シロキ工業株式会社

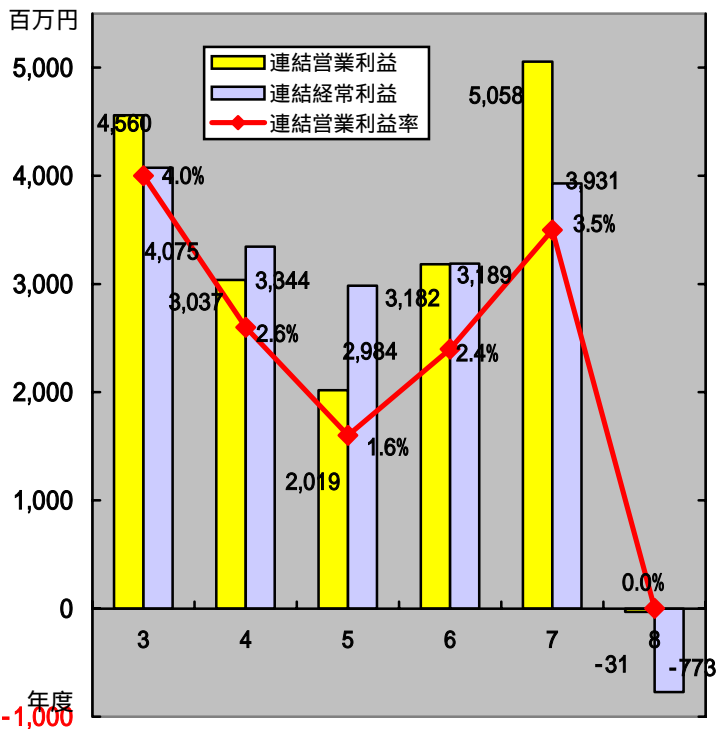
連結・個別売上高推移



連結設備投資・借入金残高推移



連結利益推移



個別利益推移

